

福島県の主要な埴輪出土遺跡



【東北地方の円筒埴輪】より転載一部改変

No.	遺跡名	市町村名	埴輪の種類	古墳の形	規模	年代
1	亀ヶ森古墳	会津坂下町	円筒	前方後円墳	127m	4世紀後半
2	経塚1号墳	会津坂下町	円筒・朝顔・家・馬・人物	円墳	25m	6世紀
3	田中舟森山古墳	塩川町	円筒	前方後方墳		4世紀後半
4	堰下古墳	国見町	円筒	円墳	22m	5世紀後半
5	国見八幡塚古墳	国見町	円筒・朝顔	帆立貝	約70m	5世紀後半
6	下鳥渡八幡塚古墳	福島市	円筒・朝顔	帆立貝	45.5m	5世紀末
7	谷地古墳	大玉村	円筒・朝顔	円墳?		5世紀後半
	久遠塚古墳	大玉村	円筒・馬・人物	円墳	22m	6世紀中葉
	産土古墳	大玉村	円筒	円墳	約20m	5世紀末?
8	金山古墳	大玉村	円筒・朝顔・家・橋	円墳	約30m	5世紀後半
	天王塚古墳	本宮市	円筒・朝顔・甲冑・犬・鳥・猪・女子	造出し付き円墳	41m	5世紀後半
9	庚申塚古墳	本宮市	円筒	前方後円墳	45m	5世紀後半
10	富田古墳?	郡山市	円筒・形象			6世紀?
11	麦塚古墳	郡山市	円筒・家・馬・男子・女子・騎	前方後円墳	約27m	6世紀中葉
12	良耕地B遺跡	郡山市	円筒	古墳?		5世紀後半
	大安場古墳	郡山市	埴輪壺	前方後方墳	約83m	4世紀後半
	大善寺1号墳	郡山市				
	大善寺2号墳	郡山市	円筒・朝顔・家・橋	前方後円墳?		5世紀後半
	大善寺3号墳	郡山市				5世紀
	大善寺4号墳	郡山市				5世紀
14	守山城三ノ丸1号墳	郡山市	円筒・人物?	前方後円墳?		6世紀中葉
15	塚畑古墳	須賀川市	円筒・男子	前方後円墳		6世紀中葉
16	団子山古墳	須賀川市	円筒	円墳	40m	4世紀末
	弘法山古墳	矢吹町	円筒	円墳		6世紀
17	鬼穴1号墳	矢吹町	円筒	円墳	27m	
	谷中1号墳	矢吹町	円筒	円墳		6世紀後半
18	原山1号墳	矢吹町	円筒・朝顔・馬・鳥・男子・女子	前方後円墳	18m以上	5世紀末
19	下総塚古墳	白河市	円筒・橋	前方後円墳		6世紀
	大塚遺跡	白河市	円筒	埴輪棺		6世紀
20	丸塚古墳	相馬市	円筒・朝顔・馬・男子・女子			5世紀末
	高松1号墳	相馬市	人物	前方後円墳	21m	
	横手A2号墳	南相馬市	円筒	円墳	約12m	
21	横手A13号墳	南相馬市	円筒	円墳		
	横手B1号墳	南相馬市		円墳	約40m	
22	沼ノ沢5号墳	双葉町	円筒・形象	古墳?		
23	横山78号墳	いわき市	円筒・女子	円墳		6世紀後半
24	御城7号墳	いわき市	円筒・朝顔			5世紀末
25	砂畑8号墳	いわき市	円筒・朝顔			6世紀
	砂畑9号墳	いわき市	円筒			6世紀
26	牛転1号墳	いわき市	円筒・馬・鳥・男子・女子	円墳		6世紀後半
	神谷作101号墳	いわき市	円筒・家・騎・馬・男子・女子			6世紀中葉
	神谷作106号墳	いわき市	円筒・朝顔	円墳		5世紀後半
27	神谷作109号墳	いわき市	円筒	円墳		
	神谷作202号墳	いわき市	円筒・家・馬・鞍			
	八幡古墳	いわき市	人物			
28	沼ノ内102号墳	いわき市	円筒・家・馬・鳥・猪・人物	円墳		6世紀中葉
29	後田2号墳	いわき市	朝顔・鞍・人物・動物	前方後円墳		6世紀後半

ふくしま 埴輪物語

もんだいは 会場のなかにあるよ!

クイズ解答用紙

こたえの番号に○をつけよう!

第1問のこたえ

い・ろ・は

第2問のこたえ

に・ほ・へ

第3問のこたえ

わ・か・よ

クイズのこたえに○をつけ、
迷路入口の受け付けまで持って行こう!

大安場史跡公園

〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地

TEL.024(965)1088 FAX.024(965)1090

E-Mail oyasuba@bunka-manabi.or.jp

Web http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba

※特別開館日やイベント事業に関しては、Webサイトをご覧ください。

■ガイダンス施設 開館時間

午前9:00～午後5:00(午後4:30最終入館)

■ガイダンス施設 休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、次の平日が休館)

■公園: 閉園日なし ■駐車場: 普通車120台/大型バス7台収容



この紙はFSC®認証紙です。

紙へリサイクル可



郡山市制施行90周年・合併50年記念

ふくしま 埴輪物語

平成26年度 大安場史跡公園 第1回企画展

平成26年 7月12日 土 ▶ 8月31日 日

古墳の上やまわりに並べられた埴輪は、そこに眠る豪族やその親族の権威と財力を示すぜいたくな装飾具です。

埴輪のはじまりは、弥生時代に吉備(岡山県周辺)の王の葬儀に備えられた壺(特殊壺)と、その壺をのせる台(特殊器台)だと考えられています。

古墳時代になると、壺から壺形埴輪、台から円筒埴輪へと進化し、2つが合わさった朝顔形埴輪も登場します。

その後、人や動物、家や武器・武具を形どった埴輪作りが盛んとなり、古墳を彩る埴輪文化は最盛期を迎えます。

■埴輪の移り変わり



『はにわの世界』より転載一部改変

I 初期埴輪と大安場古墳の埴輪壺

福島県では、4世紀後半～末ごろに造られた会津坂下町亀ヶ森古墳(全長127mの前方後円墳)、塩川町田中舟森山古墳(大型の前方後方墳)、須賀川市団子山古墳(直径40mの円墳)から初期の円筒埴輪と朝顔形埴輪が見つっています。初期埴輪は、少数の大型古墳に限られているため、地域の中でも特に有力な豪族の権威を示すものだったようです。なお、同じころに築かれた大安場古墳(全長約83mの前方後方墳)に埴輪はありませんが、古墳の頂上部には底が抜かれた儀式用の壺が飾られていました。その数は50個ほどで、等間隔に整然と並んでいたと想像されています。このため埴輪に近い役割が考えられ、埴輪壺の名前で呼ばれています。



▲団子山古墳(須賀川市)

大安場古墳の頂上部に並べられていた壺

底が抜かれているため、儀式用に作られたと考えられています。



II 埴輪文化の広がり

5世紀になるとしばらくの間、福島県では埴輪文化は途絶えますが、後半には埴輪で装飾された古墳が再び登場します。各古墳から見つかる円筒埴輪の中には、形や作り方などが同じものがあり、同一の技術をもった埴輪作り工人が、移動しながら製作したことが考えられています。

その円筒埴輪は、口縁部のすぐ下につけられた1条の突帯が大きな特徴です。国見町の国見八幡塚古墳(後円部径56mの前方後円墳)、堰下古墳、大玉村の谷地古墳(径20m以上)、金山古墳(径30m)、本宮市の天王壇古墳(径38mの造出し付き円墳)、そして郡山市田村

町の大善寺2号墳(前方後円墳?)などから出土しています。また、栃木県藤岡市の古墳や大阪府の応神陵古墳などでも発見されていることから、全国規模で埴輪作り工人の移動や技術交流があったことがわかります。



口縁部のすぐ下に突帯のある円筒埴輪(高さ51.2cm・大玉村谷地古墳出土)



III 埴輪祭祀

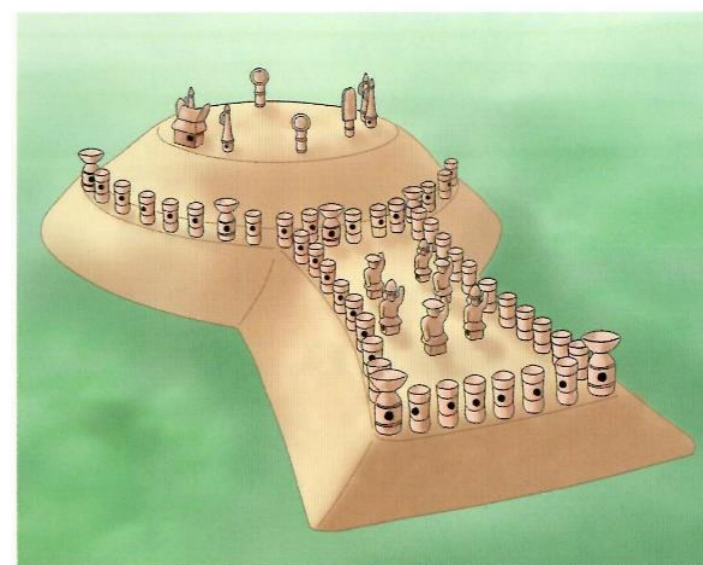
5世紀末から6世紀後半にかけて、人物埴輪をはじめとする形象埴輪が数多く作られ、古墳の埴輪祭祀が盛んになります。

6世紀中ごろに郡山市大槻町に築かれた麦塚古墳(全長約27mの前方後円墳)でも小さな破片資料ですが、多彩な形象埴輪が出土しています。

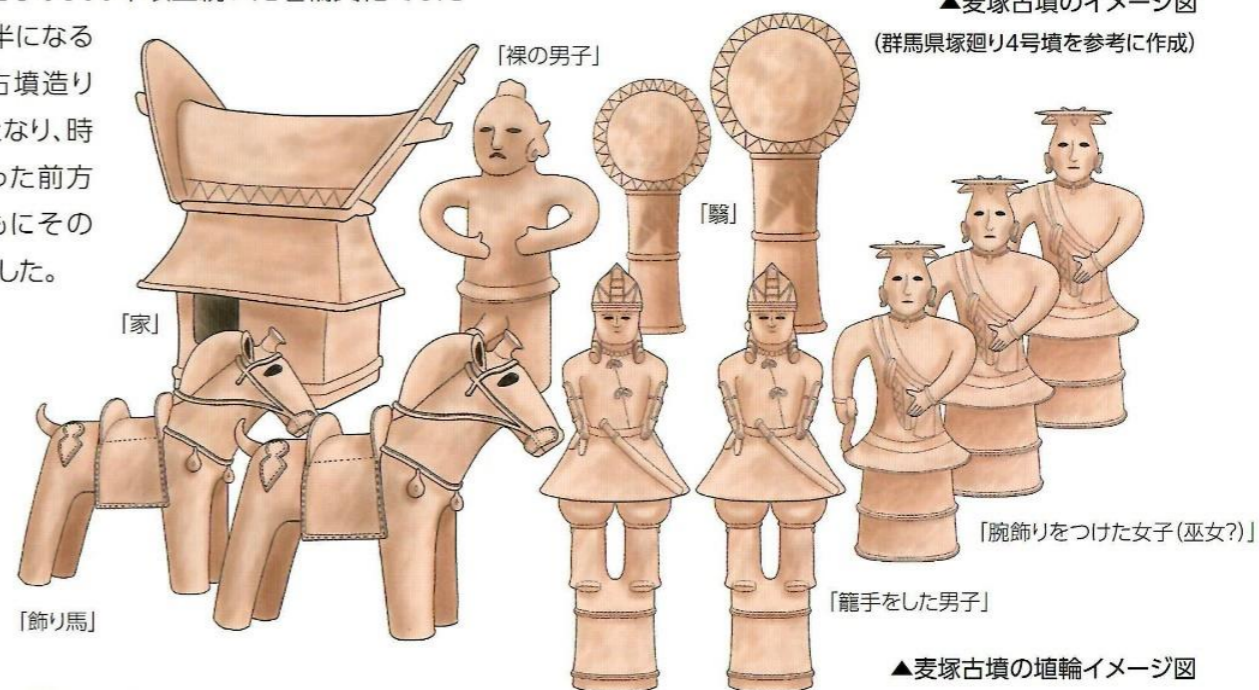
大小2頭の「飾り馬」、三角文がある「家」、「裸の男子」、祭主の頭上にかざした大小2本の「鬘」、貴人らしい「籠手をした男子」、3体の「腕飾りをつけた女子(巫女?)」などがその主なものです。

権威を示す馬や鬘が大小一対であることから、祭主も2名いた可能性があります。

4世紀からはじまり300年以上続いた埴輪文化でしたが、6世紀後半になると大規模な古墳造りが時代遅れとなり、時代の象徴だった前方後円墳とともにその役割を終えました。



▲麦塚古墳のイメージ図(群馬県塚廻り4号墳を参考に作成)



▲麦塚古墳の埴輪イメージ図